

バリアフリーに関する現状・課題と基本方針（案）

1 バリアフリーに関する主な現状・課題

本町におけるバリアフリーに関する現状や課題を以下に示します。

項目	現状・課題の整理
バリアフリー法での位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ バリアフリー法の基本理念である「共生社会の実現」「社会的障壁の除去」を踏まえた基本方針・基本理念の設定、及び特定事業への展開が求められる。 ▶ 公共交通や道路に加え、町内の建築物、駐車場、都市公園などを含めた面的・一体的なバリアフリー化の推進が求められる。 ▶ バリアフリー法の対象である高齢者や身体障害者、知的・精神・発達障害者、妊産婦・子育て世代、外国人、LGBTQ、認知症の人など、多様な人への更なる配慮が求められる。
上位・関連計画での位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 主に以下に示す上位・関連計画での位置づけを踏まえた地区設定や特定事業の設定が求められる。 《第2次和気町総合計画》 <ul style="list-style-type: none"> ・政策テーマとして、「JR 和気駅の整備」「障害に対する理解や配慮」「公共交通の維持・充実」などを設定している。 《和気町地域公共交通網形成計画》 <ul style="list-style-type: none"> ・JR 和気駅周辺を中心とした町なかエリア内の主要施設を繋ぎ、町なかの移動を確保する方針を掲げている。 《和気町公共施設等総合管理計画》 <ul style="list-style-type: none"> ・基本方針として、「ユニバーサルデザイン化の推進」を設定している。
人口の状況	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 人口が減少傾向で推移しているとともに高齢化が進行しており、今後、高齢に伴う障害等の増加が予想されるため、より一層のバリアフリー整備や心のバリアフリーの推進が求められる。
公共交通の特性	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 中心市街地に JR 和気駅が立地するとともに、JR 和気駅を起点に運行する町営バスが地域住民の日常的な移動を支えており、引き続き公共交通の充実が求められる。
主要施設の分布	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 主要な公共施設等は和気地域中心市街地（特に JR 和気駅の周辺）に集中している。面的・一体的なバリアフリー化の推進に向けて、主要施設の分布を踏まえた地区設定が重要である。

バリアフリー化状況

旅客施設	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者対応の券売機が設置されている。 ・ホーム間の移動のためにエレベーターの整備が求められる。 ・トイレに多機能トイレやオストメイト用設備、洋式便座等の整備が求められる。
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・出入口部にスロープが整備され、トイレも車いす対応となっている。 ・駐車場や施設内において、視覚障害者誘導用ブロックの整備が求められる。 ・トイレに点字やオストメイト用設備等の整備が求められる。
道路	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場等をはじめ、フラット形式の歩道や休憩施設が整備されている箇所もある。 ・歩者分離や舗装整備を行った上で、視覚障害者誘導用ブロックの整備が求められる。 ・交差点において、音響式信号機や防護柵等の整備が求められる。
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者用駐車施設が複数台分整備されている。 ・駐車場や出入口に視覚障害者誘導用ブロックの整備が求められる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設では、駐車場や施設内に視覚障害者誘導用ブロックの整備が求められる。 ・公園では、スロープの勾配の緩和や視覚障害者誘導用ブロックの整備が求められる。

※上記の内容は、まち歩き点検ワークショップなど今後の検討を踏まえ、適宜見直す予定です。

2 基本理念・基本方針（案）

前述のバリアフリーに関する主な現状・課題を踏まえ、全体像として、基本構想の策定の方
向性の案を設定しました。以下に基本理念を示すとともに、次ページ以降に基本方針の内
容を示します。

基本理念（案）

一人ひとりがいきいきと暮らし、活動できる、バリアフリーなまち 和気

基本方針 1	すべての町民が安心して外出できる移動環境づくり
基本方針 2	誰もが快適・便利に利用できる施設環境づくり
基本方針 3	障害に対する理解や配慮の促進と心のバリアフリーの推進
基本方針 4	効果的な事業実施へ向けた重点的かつ段階的なバリアフリー化の推進
基本方針 5	まち全体への影響や効果を考慮した事業実施

※上記の内容は、まち歩き点検ワークショップなど今後の検討を踏まえ、適宜見直す予定です。

基本方針 1 すべての町民が安心して外出できる移動環境づくり

乳幼児、妊婦、高齢者、障害者などのすべての人が、気兼ねなく安心して外出できるよう、旅客施設及び周辺施設の整備やバリアフリー化などの推進により、誰もが支障なく利用でき、安心して移動できる環境をつくる。

基本方針 2 誰もが快適・便利に利用できる施設環境づくり

すべての人が安心して公共施設を利用できるよう、移動環境だけでなく、高齢者や障害者をはじめとする不特定多数の人が利用する公共施設などのバリアフリー化を推進し、利用者の快適性や利便性の向上を図る。

基本方針 3 障害に対する理解や配慮の促進と心のバリアフリーの推進

障がいや障害者に対する町民の理解を深めるために広報紙等を通じ啓発し、障害への正しい理解や配慮の仕方を浸透させ、心のバリアフリーの推進と意識の向上を図る。

また、障害者に対する誤った認識が生じないようイベント等による交流やふれあう機会をつくる。

基本方針 4 効果的な事業実施へ向けた重点的かつ段階的なバリアフリー化の推進

短期間ですべてのバリアフリー化を実現することは困難であるため、鉄道や町営バスなどをはじめとする本町の交通の結節点であり、公共施設や商業施設等が集約しているＪＲ和気駅周辺地区を中心に、優先的に実施すべき事業を明確化し、重点的かつ一体的な整備を行う。

また、既存施設の改修などで改善が可能なものについては、既存施設の有効な活用に努める。

基本方針 5 まち全体への影響や効果を考慮した事業実施

事業を実施する場所は、基本構想内で定める重点整備地区内となるが、事業内容については、重点整備地区だけでなく、まち全体への影響や効果を十分に考慮した上で設定する。

また、重点整備地区内外に関わらず、高齢者や障害者等の利用が多く見込まれる施設や道路などについては、安全に利用できるよう、定期的な点検・補修により改善を図る。